

英語

I

■出題のねらい

日常的な会話の内容を正確に理解する力を問う問題です。2人のやりとりを見失わないようにしながら、細かい情報を読み取りましょう。空所補充問題は、空所の後の会話をしっかり読みながら、文脈に合う選択肢を選ぶ必要があります。内容読解問題は、ビジネスクラブの活動内容を会話の中からしっかりと読み取るとともに、話者が2人いるので、どちらの人物について当てはまる内容なのか、それとも両方の人物について当てはまる内容なのかにも注意しながら読み進めると、正解にたどり着けるはずです。

■採点講評

2 ~ 5 は、いずれも8割~9割の正答率でした。選択肢も日本語ではなく英語(英文)であったにもかかわらず高い正答率でしたので、十分に内容読解をした上で、選択肢の英語もしっかりと読めていました。一方で1は正答率が3割半ばでした。ここは空白直後の“things”を修飾するので分詞が入ります。また“fascinate”は「~を魅了する」の意味で、この場合、修飾先の“things”が「魅了する」側になるため、現在分詞で修飾します。文法的な知識及び語彙力も問われる問題にも対応できるようにしましょう。

II

■出題のねらい

理科実験の手順と解説を読み、ポイントとなる情報を的確に読み取る力を問う問題です。実験に際して必要な準備、実験手順、結果、コメントなど、様々な情報があります。実際の実験の内容を思い浮かべながら読み進めることで、正答率も上がるはずです。缶の色によってエネルギーを吸収する割合が変化する点を踏まえて、整合性が合う選択肢をしっかりと選びましょう。

■採点講評

6 と 8 は正答率が9割以上でした。7 は、正答率が6割弱であり、不正解の選択肢のうち②を選んだ受験生が3割ほどいました。②の選択肢は「水の色」となっていますが、本文の実験においては、水を入れる缶には黒く色付けをしていますが、水に色を付けているわけではありません。選択肢の英文をしっかりと読み込む必要があります。また、語彙力・表現力を問う9は2割半ばの正答率でした。

III

■出題のねらい

オンライン書店のベストセラーランキング表にまとめられた書名や著者名、順位やその変動などの情報を理解する問題です。各設問の英文を先に解釈しておくことで、どのような情報を表から読み取ればよいかを把握できます。(1)(2)は、「各書籍がこのリストにランクインしている週の数」を問う設問です。英語の“more than 10”が「 $X \geq 10$ 」ではなく、「 $X > 10$ 」を意味することに注意しましょう。(3)は、「Last week」の欄でランクインしていなかったことを示す「-」が15冊中5冊あることに気づけば正解できます。(4)は、第2位と第14位の2冊の上下関係を英語で表現する問題です。(5)は、「2人組の」という意味になる“a pair of”という語句が選択できるかどうか問われます。(6)は選択肢にある動詞の意味を正確に区別しましょう。

■採点講評

出題のねらいにも記載の通り の“more than”を問う問題の正答率は3割でした。6割近くの受験生が誤答の③を選択していました。こうした細かな表現もしっかりと普段から身に付けていくように心がけましょう。

IV

■出題のねらい

ラッキー7がなぜラッキーなのかをコンパクトに記した比較的短めの長文問題となります。短めの長文ゆえに、詳細よりも、7にまつわる例を紹介した箇所が多めとなっていますが、油断せずにしっかりと内容を読む必要があります。また、“dice”(サイコロ)は複数形であり、単数形が“die”になります。“die”(死ぬ)という動詞は知っているかもしれませんが、サイコロの単数形も“die”という点は知らなかった受験生も多いかもしれません。ただ、“die”を「死ぬ」という意味で訳すのはここでは明らかに文脈や文法的にも合いませんので、落ち着いて“die”の意味を推測する力も必要となります。

■採点講評

おおむね6～7割の正答率だったので十分に内容を理解して読み進めた受験生が多かったです。ただ、 は正答率が4割ほどでした。この問題は、“becomes widely accepted”の一部が空所となっているわけですが、be動詞の代わりにbecome(s)が用いられた受動態の形、そして“becomes”と“accepted”の間に副詞“widely”が挿入されているため、受動態の形になるというところまで見抜けなかった受験生が一定数いました。副詞に惑わされないようにしましょう。

V

■出題のねらい

モウドクフキヤガエルという毒ガエルの生態について記した比較的短めの長文問題となります。短めの長文ながらも、皮膚の色やその派手な色の役割、毒はあくまで自己防衛のためにあるという点、その致死量、コロンビアのジャングルの先住民など、細部までしっかりと読まないで正答にたどり着けない問題ばかりです。また、一部大きい数字の読み方を問うている問題もありますので、発音に関しても日頃から身に付けておきましょう。

■採点講評

内容読解の 23、24、26 はいずれも 8 割を超える高い正答率でした。一方で、3 割程度の正答率だったのが 25 です。例えば “in size” や “in height” など単位とセットで使用する前置詞として “in” があります。前置詞は種類が多数あるのに加えて、一つの前置詞でも様々な用途で使用します。それぞれの前置詞が持つイメージを念頭に置きつつ、表現力を増やしていきましょう。

VI

■出題のねらい

各問の正答の並び替えは以下となります。

- 1) lucky not to be caught in the shower
- 2) gave up trying to lose weight
- 3) not as strong as he used to be
- 4) so hard that he must have done well

1) は感情の原因を表す不定詞の副詞的用法【形容詞+to do】がポイントです。2) では give up は目的語に動名詞しかとれないことを押さえておけば大丈夫です。3) の used to は過去の状態を表します。同一人物の現在と過去を比較している点がポイントです。4) は so ~ that 構文（とても～なので～だ）と助動詞 must+完了形（～にしたに違いない）の2つを組み合わせた問題です。どちらもぜひ覚えておいてほしい重要文法事項です。

■採点講評

一番低い正答率でも 6 割を超えていたので、全体的によくできていました。この調子でしっかりと並び替えができるようにしておきましょう。